

2017年9月17日(日)朝10:10
9月第3共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第16、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**7つのラツパ；第7の金の鉢：**
大バビロンなる大淫婦

聖書：ヨハネの黙示録 17章15～18節

＜口語訳＞

新約聖書403頁

ヨハネの黙示録 17章15～18節

＜新共同訳＞

新約聖書472頁

ヨハネの黙示録 17章15～18節

＜新改訳第3版＞

新約聖書495～496頁

ヨハネの黙示録17章15～18節

＜塚本訳＞

新約聖書813頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者との癒着、大淫婦と獣の奥義の説明、大淫婦と獣への仔羊の勝利予告です。
- ◇ヨハネの黙示録17章15～18節も、大バビロン・大淫婦の自滅予告です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第17章15～18節から
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録17章15～18節；ヨハネは、大バビロン・大淫婦の自滅の予告を聴きます。

◇17:6～18；塚本訳◆第七金の鉢—異象の説明

「15 すると天使が私に言う、「お前が見た(あの)淫婦の坐っている(多くの)水(というの)は、(諸々の)民と群衆と、国と国語である。

16 またお前が見た十の角と、(淫婦を背負っている)獣——彼らが(今度は)淫婦を憎み、彼女を荒れ果てさせ、裸にするであろう。またその肉を喰い、彼女を火で焼くであろう。

17 というのは、神が彼らの心を動かしてその御意を行わせ、彼らの思いを一つにして、神の御言が成就するまでは彼らの王権を獣に与えさせ給うたからである。

18 そしてお前が見たあの女こそ、地の王達の上に王権を有つ大なる都(バビロン)である。」と、ヨハネは、大バビロン・大淫婦の自滅の経過の説き明かしを聴きました。

◇ 15～18節 ;ヨハネが、「お前が見た(あの)淫婦の坐っている(多くの)水(というの)は、(諸々の)民と群衆と、国と国語である」、「あの女こそ、地の王達の上に王権を有つ大なる都(バビロン)である」との説明を受け、「神が彼らの心を動かしてその御意を行わせ、彼らの思いを一つにして、神の御言が成就するまでは彼らの王権を獣に与えさせ給うた」と、さらに示し、最終的には、「お前が見た十の角と、(淫婦を背負っている)獣——彼らが(今度は)淫婦を憎み、彼女を荒れ果てさせ、裸にするであろう。またその肉を喰い、彼女を火で焼くであろう」との予告を聞いたのです。

⇒「七つの頭」と「十の角」の理解は、多様で、神なき権力者と支配力を示していることを先週確認しました。

⇒その「大バビロン・大淫婦・ローマ」は、諸国の王たち・「獣・反キリスト」を従えますが、反撃を受け、「彼らが(今度は)淫婦を憎み、彼女を荒れ果てさせ、裸にするであろう。またその肉を喰い、彼女を火で焼く」、自滅です(16)。

◆ローマ13章1～10節;パウロは、神は、世の権力者の上に立って神の御意をされると、語っています。

◇13:1～7;塚本訳◆官憲に対する義務

- 「1 人は皆上に立つ(国家の)官憲に服従せねばならない。神からではない官憲はなく、現存の官憲は(ことごとく)神から任命されたものであるから。
- 2 従って官憲に反抗する者は、神の命令に違反する者である。違反する者は、自分で自分に(の)裁きを招くであろう。(この世で罰を受けるばかりでなく、最後の日にも。)
- 3 役人が恐ろしいのは、善いことをする者でなく、悪いことをする者である。(だから)あなたは官憲を恐れなくなければ、善いことをせよ。そうすれば官憲から誉められる。
- 4 官憲はあなたの最善のためにつくす神の召使であるから。しかしもし悪事をすれば、恐れねばならない。見えのために剣をささげているのではないのだから。官憲は神の召使で、悪事を行う者に対して(神の)怒りをあらわす復讐者である。

- 5 だからかならず服従せねばならない。ただ怒りの(恐ろしさの)ためだけでなく、(それが信ずる者の義務であることを知っているあなた達は、(自分の)良心のためにも。
- 6 それゆえに(同じ理由で、)あなた達は貢をも納めねばならない。官憲は神につかえる者であり、いま言った職務に全力をそそいでいるからである。
- 7 (彼らに対して、信ずる者には普通の人以上の、言わば借りがある。)すべての役人にこの借りを返しなさい。貢取りには貢を、官税取りには官税を、恐るべき者には恐れを、尊敬すべき者には尊敬を。」と、パウロは、神の支配を語りました。

◇13:8～10; 塚本訳◆隣の人を愛せよ

- 8 (官憲ばかりでなく、)だれにも何も、借りがあってはならない。ただし、互に愛することだけは例外である。(この借りは、いつまでも返してしまわないように。)人を愛する者は(モーセ)律法を完全に果たしたのである。
- 9 なぜなら、『姦淫をしてはならない、殺してはならない、盗んではならない、(人のものを)欲し

がってはいらない』など、このほかにどんな掟があっても、『隣の人を自分のように愛せよ』というこの一言に帰するからである。

10 愛は隣の人に悪事を働かない。だから愛は律法の完成である。」と、パウロは、神の律法を語りました。

⇒パウロが「**神の支配**」、「**神の愛の律法**」を語った時、ローマは、キリスト者を迫害していたのです。その帝国の「**官憲**」に従うことを求めたのです。

⇒そして、さらに、「**神の律法**」に従うことを第一として来た同胞に、「**神の律法**」は、「**愛の律法**」であることを示したのです。

⇒パウロが、キリスト者を迫害していた時、復活の主イエス様ご自身が、「**サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか**」と語りかけて下さる声を聞いたのです。主は、キリスト者と一体となって「**神の愛**」に生きておられることを体感したのです。

⇒**神**は、ローマの**神なき指導者**を自滅の道へ向かう道を敢て歩めせ、「**神聴従**」の真実を示して下さったように、**神聴従**は、**恵み**です。

- ⇒「**ローマ帝国**」は、強大な支配圏を確保し、恐慌政治体制をもって、諸国の指導者を支配してきました、反逆者には、死をもって応じたのです。
- ⇒キリスト者も、沢山の殉教者を産みましたが、同時に、帝国の皇帝の強権力が弱ると、教会の指導者が強権力を発揮して、多くの殉教者を産み出してきました、これが中世と言われる時代の産物であり、宗教改革の旗印を掲げた人々も、長く、この潮流に流されたのです。
- ⇒多くの改革者たちが、「**神の愛の律法**」に生きたいと願いつつ、「**公権力の渦**」から逃れることができませんでした。
- ⇒**EY師**は、旧約聖書のヨブ記23章の説き明しの中で、「ヨブが自分の正しさだけに目を奪われている間、神との交わりも消え、不安と焦燥に悩まされた。・・しかし、人間は所詮、罪人である。ただ神のあわれみによるほかすべないものである。」と語り、「実は、自分自身がみじめな者、あわれむべけ者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気づく」時、神に愛されていることに気づくと。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝と大讚美、6～13章は、聖徒の戦い、天使と龍(悪魔・サタン)、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、15章は、金の怒りの鉢による神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、腫物、血海、血水、太陽炎焼、獣の座の暗黒による裁き、ハルマゲドンでの龍(悪魔・サタン)と獣等と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者との癒着、大淫婦と獣の奥義の説明、大淫婦と獣への仔羊の勝利予告です。
- ◇ヨハネの黙示録17章15～18節も、大バビロン・大淫婦の自滅予告です。

- ⇒ヨハネの黙示録17:15~18は、「反キリスト・獣」の反逆によって、「大バビロン・大淫婦」が、**自滅**することを予告しています。
- ⇒この「**神なき権力の自滅**」の原則は、いつの時代においても、心にとめておき、「**神の愛の律法**」に生きることに全力を注ぐことが、**神の御意**に従って生きる秘訣です。
- ⇒**EY師**は、ヨブ記18章の説き明しの中で、「**信じるということは、疑うことをやめることではない。疑いをこえることである。**それは、一種の賭けであり、冒険である」と語って、**だれも苦悶なしには、(神への)疑いをこえることはできない**と、メッセージしておられます。
- ⇒ヨハネは、ローマ帝国の暴君によって、自分もパトモス島へ幽閉されたり、多くのキリスト者の仲間を殉教によって失いました。**パウロ、ペテロ、兄弟ヤコブ**と、多くの苦悩を背負って生きていましたが、**神は、「神なき人間支配」**は、必ず終わることを告げ、**ヨハネの神信仰、忍耐**に期待しつづけて下さったのです。
- ⇒今日は、**神の福音**に**無関心な時代**ですが、**生きる目的**を失っている人々も**多い**のです。